

輝いている人を紹介します

# まちのキラリ



普段は霊山こどもの村の「遊びと学びのミュージアム」で子どもたちとワークショップに取り組む小原さん。9月に、発達障害の子どもが主人公の「こわいきもちとちよつとのゆうき」を出版しました。子どもたちを見守ってきた小原さんが、絵本に込めた想いとは。

## 「元気を届けたい」がきっかけ

絵は元々好きでしたが、震災で当時勤めていた小高の児童クラブの子どもたちが散り散りになってしまつて。絵本なら、離れていても元気を届けられると思ったのが、絵本づくりを始めたいきっかけです。

## 子どもが持つ世界観を大切に

子どもに関わる仕事をしている縁なのか、子どもが主人公の作品の共著のお話をいただくことが多くて。今回は、発達障害の子どもを持つお母さんとの共

著です。主人公のしんや君にはADHDと自閉症スペクトラムがあり、自分の思いをうまく伝えられなかったり…。

でも、得意なこともたくさんあるんです。障害の有無に関わらず、子どもがそれぞれに持っている世界観や感受性、子ども同士の世界を大切に伝えたいと思つて描きました。

## 子どもの豊かさが絵に繋がる

ミュージアムで子どもと一緒にいると発見の連続です。いろいろなものにつながるアンテナを持つていて「これを



ワークショップで子どもと一緒に絵を描く小原さん

作ろうね」と言つて始めたのに全然違うものができあがりするんです（笑）一人ひとりにキラキラとした豊かさがあつて、それが私の絵本にもきつとつながっているような…。絵本を開いてくれた子が笑顔だったら嬉しいです。

## この地にいるからできること

霊山は私を支えてくれるエネルギーがある場所です。帰り道に見る山の木立がきれいで、絵本に入れたこともありました。福島の自然と触れ合う日常からインスピレーションが生まれていると思います。この地にいるからこそ生まれる発想を、みんなに届くように描けたら幸せです。



霊山こどもの村  
おばらふうこ  
**小原 風子**さん（南相馬市在住）

福島市生まれ。東京藝術大学で日本画を学ぶ。これまでに「僕らの海」「もこもこ雲のテラドラゴン」「ももいろのアルパカ」「僕と2まい葉」などがある。作品は霊山こどもの村「遊びと学びのミュージアム」で読むことができる。



こわいきもちとちよつとのゆうき  
たかみやかなえ・さく  
おばらふうこ・え  
(みらいパブリッシング)

